



なか がわ たみ ひで
中川民英

にほんきょうさんとうつしぎだん
日本共産党津市議団

障がい者雇用が促進されるよう対策せよ

問 障がい者雇用の現状は、知的障がい者、精神障がい者に門戸が開かれていないため、雇用が進むよう対策せよ。

平成30年4月から、障がい者の法定雇用率の算定基礎の対象に、新たに精神障がい者が追加される。

企業に受け入れる準備等を求めるためにも、市の職員募集で手本となるよう配慮せよ。

答 本市の障がい者雇用率は、法定の2.3%を上回る2.51%となっており、採用試験においては、試験会場のバリアフリー化、筆談による試験説明の配慮を行うなど、障がい者の雇用のさらなる推進に取り組んでいる。一方で、公正な採用選考の観点からは、他の障がい種別の者を含め、広く門戸を開くことも求められていることから、知的障がい者や精神障がい者の雇用については、勤務場所や勤務時間、業務内容など、無理なくやりがいをもって働けるよう、しっかり検討して話し合っておく必要があると考えている。また、身体障がい者対象の事務職職員採用試験と全く同じように考えるのではなく、それぞれの特性に応じた働ける観点からも検討していく。

●その他の質疑・質問●

○精神障がい者の生活支援について

- 地域移行を進めるなら、生活の場での援助を手厚くせよ
- グループホームなどの受け皿整備を進めよ

○視覚障がい者の外出支援充実について

- タクシー券の助成拡大を
- 公共施設の玄関やトイレなどに音声案内整備を



▲市本庁舎の障がい者用トイレの案内表示



こばやし たか とら
小林貴虎

しみん
市民クラブ

津市の小中学校における郷土教育の考え方は

問 津市教育委員会で作成している副読本「わたしたちの津市」では、学習指導要領が目標とする「地域に対する誇りや愛情」を育むには内容が不十分である。津市にあり、全国的、世界的に活躍している企業の紹介も、津市ゆかりの歴史的人物の紹介も少ない。新津市で修学した児童が、市全域の先人の成果を等しく学べる副読本が必要であると考えているがどうか。

答 郷土教育は、郷土に対する愛着と自分たちの郷土について誇りを持ち、地域の一員として自覚することで、将来、津市に貢献する人材を育てることが目標である。小学校の社会科の副読本は、自分の地域がどうなっているかという意味で使用し、基本的に固有名詞は載せないことにしている。津市では、特色ある学校プロジェクト事業の中で、地域と連携し、地域の方から芸能文化や伝統を学ぶ取り組みを行っており、副読本だけに限らず、さまざまな形で郷土について学んでいる。また、津商工会議所作成の「ふるさと読本 知っておきたい津」には、市内の偉人等についても詳しく掲載されていることから、この冊子も併せて、津市についての学習を深めていく。

●その他の質疑・質問●

○津城の石垣の改修に関して、今後のスケジュールは

○UIJターン促進事業の今後の計画は

○子どもがつくる弁当の日、食育面だけでなく、子どもたちの未来を拓くため有効な手段だと聞かすが、津市での実施の意向は

○四日市市でも始まった路上喫煙禁止条例、ポイ捨て禁止も含めた津市の今後の意向は



▲郷土教育で使用されている副読本「わたしたちの津市」